

## 調査研究の範囲・実施方法

我々の周囲には大小様々な音が溢れて人間の生理・精神にさまざまな影響を及ぼす一方、人間は音を生活にうまく利用してきた。音が無い無音の状態は気持ちの良いものではないことは、無響室に足を踏み入れた経験のある人はピンとくるであろう。

人と音のコミュニケーションには、音楽を聞いたり楽器の演奏をしたり、鳥の鳴声や小川のせせらぎなど自然の音に耳を傾けたりといろいろあるが、この報告書では「人間=人体」と「音」のさまざまなコミュニケーションについて、人体から発生する電気信号と音源という点に主眼を置いて多面的に調査したものである。即ち、音を用いて意識的に脳波など人体から発生する電気信号を制御したり、又逆にこれらの電気信号で音を操作したり、或は体を動かすことにより発生する信号で音を自由に操ったり等、より密接に人体と結び付いた音を扱うこととする。

調査内容としては、学術的な調査よりもこれらの方面の研究・技術分野の今後の展開・発展の方向及び市民生活との接点を探ることに重点を置いている。

調査方法としては、当財団が独自にテーマに関連する文献、特許を調査する一方、関連する研究や事例を実施している各機関の有識者や企業・団体に対する取材・聞き取り調査を行なった。そしてこれら全体の調査を通じて、人体に対して快適な投立つサウンドシステムの種々の在り方の提言を行なった。